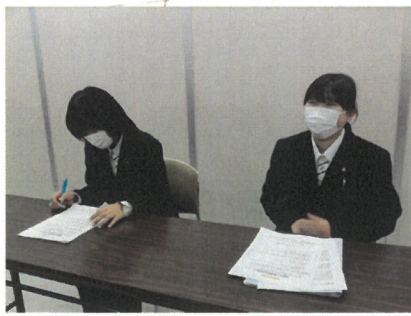


地域新聞

地域おこし協力隊 project 6

私達はフィールドワークで地域おこし協力隊のところに行ってきました。ここでは私達が聞いてきたことを紹介します。



地域おこし協力隊に入ろうと思ったきっかけは？

土山さんは30年前にはテレビ局で働いていました。ではなぜ津山の地域おこし協力隊に入ることになったのでしょうか？

土山さんはテレビの企画で地域おこしのことについて知ったそうです。そして、昔の生活は便利ではなくても今より暮らしが豊かでもと羨しかったということを感じ、テレビ局をやめて別の地域で町おこし関係の会社を設立しました。でも、その会社は5年でたまたまことになってしまい、まだやり残した感じがあって、今までの経験をいかして津山で地域おこしをしてみたいと思ったそうです。

また、人は人と関わらず生きていくことは難しい。仲間とともに生きる。仲間とともに生きるから、そこに喜びが生まれる。それが仕事になり、仕事の上手くいき喜んでもらえることやりがいにならる。土山さんはこのように考えており、お金をかせぐというのを目的とするのではなく、皆と何かをやって喜んでもらえる仕事に就きたかったため、地域おこしをしようと思えたそうです。

私もいくがお金がかかせる仕事だからといって楽しくなければ続かないと思っ
ているので、土山さんの意見に深く共感しました。また、昔の生活は今より豊かだ、たという考え方が私にはない考え方で確かによく考えてみればそう
かもしれないと新しい発見ができました。
皆さんもこの機に一度自分たちの暮らしについて改めて考え直してみれば
どうでしょう？

日本全体で過疎化(少子高齢化)が進んでいる？

比呂さんは、日本全体で過疎化(少子高齢化)が進んでいることを知っていますか。少子高齢化は女性が働くこと、家庭問題による離婚、価値観による未婚が多くなるなどが原因として考えられています。そうしたことにより、高齢化が進みはじめています。そんな中、津山でも人口が約十万人以上でしたが近年、十万人をきってしまいました。そこで土山さんが担当している城東地区について紹介します。

城東地区は古い町並みを保存していくため、家が古く住みづらい町並みになっています。また、長年住み続けているお年寄りが多くなって高齢化が進んでいます。多くの人はデメリットばかり考え、「こんな町には住んでいられない」という理由で多くの人が郊外に住んでいます。そのため城東地区は子供の数が少なくなり、高齢化が進んでしまっています。

私はたくさん観光客が訪れると町の活気があふれ、その町の特徴を活かして地域の魅力が増えるのではないかと考えました。このような場所をできるだけなくせよう。皆さんも城東地区を訪れてみてはいかがでしょうか。

右の記事で城東地区について紹介しましたが、**3つの良いところ**、こちらでは城東地区の**良いところ**について紹介していきます。

① **城東の歴史が感じられる。** ↓古い町並みが今でも残っていることから城東の歴史を感じることが出来る。

② **昔ながらのお店がある。** ↓風情あふれる昔ながらのお店があり、人気スポット！

③ **城下町津山の面影がある。** ↓小さな路地があり、当時の面影をそのまま残した建物が連なっている。

今回は三つだけ紹介しましたがまだまだ城東の良いところはたくさんあります。

皆さん知ってますか？

城東の楽しい活動！

皆さんは津山の地域おこし協力隊が行っている行事活動を知ってますか？
皆さんの活動が行われている津山ですが、特に城東地区の活動二つをまごめてみました。

一つ目はコロナ禍で行っていた期間限定のイベント「ワンコイン弁当です!!」一枚目で挙げたように城東地区は少子高齢化が進んで子供の数も少ないです。そんな中、まずは高齢者の方々に元気がなってもらおうと考えた企画です。さらに高齢者の「スーパーに行くのもコロナ禍で怖い」という不安も解消しています。高齢者が外に出ることを促すだけでなく、地元飲食店に五百円で販売できるお弁当を作ってもいい、城東屋敷で販売することで高齢者の外出を促すと共に、コロナ禍で苦しんでいる飲食店を助けています。

二つ目は「まや町燈路」です。皆さんも一度はあのレトロな町並みを見たことがあると思います。その町並みを活かして地域おこしをしよと考えた企画です。地域の人の身近にある牛乳パックに絵を描いたり、切り取りして作品を作り、その中にキャンディを入れて城東区全体に置いていくんです!! 夜、キラキラ輝く城東はとても幻想的です。この活動は子供から大人まで楽しんで活動でき、自分の作品が地域を明るくしてくれるのでより地域を好きになってもうえます。そのため、一回の活動で約二千七百個ほど作成されました。僕は地域が一丸となったら、二千七百個というとても大きな事ができるんだなあと感じました。

三つ目は朝市です。朝市とは地域で地域の人が、朝行う市場のことです。城東の朝市では岡山県立東高等学校や地元の豆腐店などが協力して、パウンドケーキやたまごまな豆製菓、コーヒータホットドッグなどを販売しています。朝からほっとする、地域の温かみを感じる企画ですよ。月に二回行われているので、僕も行ってみようと思いましたが、このように、城東では皆さんのイベントを地域おこし協力隊が行われていました。

土山さんの心に残った言葉集!

ここでは、私の心に残った土山さんの言葉を紹介します。

「昔の生活は便利でなくても今より豊かで美しかった。」

「視点を変えると中山間地域だからという不利、住みづらいという時代じゃない。津山だからよかたということだ。である。」

「その地域にあった町づくりをしていけば、これからは町を生かすことはできる。」

他にも色々なことを教えていただきましたがその中でも特に私はこの3つの言葉が本当にその地域のことをよく考えていると伝わってきます。新しい考え方の学びもあったので心に残りました。

感想
僕はこのワールドワークで、地元津山でも知らなかつたことを多く学びました。そして、城東で行われている行事や地元で行われているイベントについて知り、関わってみたいと感じました。担当の土山さんは、くわしく説明してくれました。初めてのことで、たのびますが、とても分かりやすかったです。この新聞では収まらないほど皆さんのことを学んだので、この経験を活かして地域の魅力を伝えていきたいと思いました。

地域おこし協力隊土山さんからの課題

課題は自分たちがこの先、中山間地域にすむなら何が出来るか私達はまず、中山間地域ではどんな生活になるのかを考えてみました。中山間地域には学校やスーパー、病院が近くになく、バスやタクシーも通ってません。さらに道も狭いので普通の自動車ではすれ違えないのは難しいです。このような中山間地域ですが、私達これらの問題を解決するために、二つのことを考えました。

一つ目はオンライン環境の充実です。理由は、学校のオンライン授業、病院のオンライン診察などが出来るからです。

二つ目は小型の自動車や自転車、バイクの利用です。道が狭い所でも容易にすれちがうことが出来ます。

これらのことが実現できれば、中山間地域も住んでいけると思っています。

